

ナシ施肥作業省力化試験の果実品質調査を実施

ナシ栽培の慣行施肥は、通常、基肥(休眠期)、追肥(生育期)、礼肥(収穫後)の3回行うため、その省力化が求められています。当所では、作業の省力化技術を確立するため、収穫後の礼肥にあたる時期に緩効性肥料を配合し、基肥も併せて施肥する技術について検討しています。

今年度の収穫を9月14日、9月21日に行い、各試験区100果について、果皮色、果実重、糖度の計測を行ったところ、緩効性肥料を用いて施肥を1回減らしても慣行施肥と同等程度の果実を得ることが出来ました。

今後、定期的に採取した土壌の分析結果とともに、最適な施肥方法を確立します。



非破壊の糖度センサーを用い、各区 100 果の糖度を測定